

## 地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念を作り玄関壁に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で理念を意識しケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会や訪問時理念を見ていただき理解してもらおうよう声掛けしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	老人会の人達との奉仕活動や公民館での行事に参加した時等気軽に声を掛け合っている。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特養での行事・町内の行事に積極的に参加するように心掛け地元の人々と交流することに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事等に積極的に参加し地域の高齢者との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解し指摘を受けたことは改善し評価を活かしてケアに取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り組み状況等報告・説明を行っている。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のケアマネジメント推進事業研修会に参加し市の担当者や他の施設の参加者と一緒にセンター 방식을学びケアに活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用している家族はいるが必要としている人はいない。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事前調査時に利用者への虐待がないかどうか本人・家族と十分話し合うように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時重要事項書類を説明し理解納得してもらい署名捺印をしている。 退所時家族の意向や理由を尋ね意向に沿うよう対処している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より意見・不満・苦情があった時は即、関係者で話し合い検討し改善に努める。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	状態報告はその都度実施している。 お小遣い帳の開示は定期的に行いサインをもらっている。 職員の異動もその都度報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見・不満・苦情があった時は内容を検討し改善するよう努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・朝礼・定例研修会の後、何か意見はありませんかの質問に意見質問を言っている。	職員会議・朝礼・定例研修会等で意見を言う機会を持つ。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急事態が生じた時や研修参加時等各号館で勤務の調整を行い話し合い協力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>職員間の報・連・相・連携・チームワークを大切にすることを周知していく。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>他施設の訪問・見学を実施しサービスの質の向上に役立てていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>音楽を流し気分をリラックスしたり大きな声で歌を唄ったりする。 職員同士思っている事・悩んでいる事を話せる仲間作りに取り組んでいく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>管理者との面談時思いを話す事で理解・納得してもらう。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査に行き本人の思いを十分聴き受け止め信頼関係を築くよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを十分傾聴・受容し安心していただける説明を行い信頼関係を築いていくよう努力している	○  いつでも相談・話し相手ができる様配慮していく。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査に行き十分話しを聞き本人・家族が必要としている支援を見極め、他職種・関係機関とも連絡調整し対応を行っている。	○  事前調査に行きグループホーム対象者でない時は話し合い相談し他施設の紹介を行う。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族より入所の申し込み・見学時に本人の意向を尊重し徐々に慣れていただくよう家族と十分話し合いを持ち工夫している。	○  家族と一緒に泊ってもらったり日中何時間か体験入所する等本人が安心して生活できるよう工夫していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人、個人を大切に常に寄り添うケアを心掛け実践している。	○  人生の先輩である利用者より学ぶ事が多い。過去の記憶は鮮明なので寄り添い話を引き出す声掛け・努力をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族と一緒に近辺や施設内の散歩を楽しむよう促している。	○	県外在住の家族に対しての支援については特に配慮を密にする。1ヶ月に1回の外泊に対して十分な状態報告を行い支援していく。 家族の面会時利用者と心からふれあえる環境作りに努力する。お茶を提供し職員も一緒に日頃の様子を報告し安心してもらおう。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が「会いに来たい」「又、来たい」と思えるような対応に心掛けより良い関係が築いていけるよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状態が悪化したり、もしもの時連絡・報告することを親戚に伝えている。		家族がなく遠い親戚より連絡をして来ないようなとの依頼がある利用者に対しての対応・支援について長い目で見て関係継続を断ち切らない方法を考えていく。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で利用者同士の関わり合いを大切にし職員も仲介に入り笑顔のある雰囲気作りに努めている。 簡単な作業・レクリエーション・軽い運動を一緒にすることで関わり支え合う姿が多く見られるようになっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所し併設の特養や病院へ移動した利用者に対しては面会に行ったり声掛けし関わりを持っている。行事等で家族に会った時は気軽に話し関係を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何かしちよらんとたまらん」と訴える利用者に作業を提供している。丁寧に熱心にする。「手に力が入らん」と話す利用者に簡単な作業を提供し本人と話しながら取り組んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し生活歴・馴染みの暮らし・生活環境を把握しケアに活かしている。県外在住の家族より生活歴の記入した用紙を送っていただきケアに活かしている。	○ 家族にも面会時・行事参加時等に声掛けし生活歴等の情報協力の依頼をする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアカンファレンスで話し合い残存機能の把握・現在のADLの状態把握をしケアプランに取り上げ総合的に支援するようにしている。職員間で一人ひとりの利用者の一日の過ごし方・心身状態を共有把握し楽しく穏やかに過ごしていただくよう工夫・努力している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医務・栄養士には事前に文書にて照会指導を受ける。家族には要望・意向を聞き介護計画に取り入れ実施している。	○ 課題の部分は利用者の思い・願い等を本人の言葉を記入し添うように計画を作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行い実施している。入退院・状態に応じて計画を見直し実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌に様子・ケアプランの実施結果・気付いたこと・工夫したことを記入しケアカンファレンスの時に共有し活かしている。 ミーティング・申し送り簿等にて共有し工夫・気づきを話し実践し介護計画に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設・病院へ家族の状況・要望を伝え状況に応じた協力を依頼し支援をしている。	○	ADL低下し家族が将来のことを考えておられる時併設施設の紹介を行い安心してもらう。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年行われるイベント（運動会・夏祭り等）にボランティア・近隣の保育園の協力があり利用者・家族一般参加者が大変喜ばれている。		町内のイベントや近隣の保育園を訪問し、交流をはかっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意向や必要性に応じて他施設に入所する場合他のケアマネジャーやサービス事業者に情報を提供し話し合い支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	高岡の地域包括支援センターとお互い協力し働きかけを行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の受診を実施。 本人及び家族の希望を最優先にかかりつけ医の受診を実施している。 家族希望の皮膚科・眼科・精神科等家族の協力の元受診している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院の医師に相談・診断・治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の師長・看護主任に委託し24時間体制で支援している。	○	グループホーム職員の中に看護師がいたらいいと思う。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設病院への入院では日頃から情報交換・相談・連携を行っている。		重度の認知症の場合入院を断られたり入院しても対応が出来ず帰されたり併設病院へ再入院することがある。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合状態に応じて併設病院・施設等への入院・入所を家族・相談員・ケースワーカーと話し合い対応を共有している。 終末期における介護方針については文書にて家族に同意を得ている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの場合重度化した場合特養への入所・併設病院への入院はあるが今まで事例がなく検討や準備は行っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	県外（大阪）のグループホームに移ることになった利用者の場合、家族と十分話し合い本人の気持ちを十分聞き落ち着くまで待つことで住み替えによるダメージはなかった。お礼の葉書が届く。	○	家族より移動の相談を受けた時は現在の状態を十分伝え関係者間で十分な話し合いを行い、利用者にとって一番良い方向性を見出して行くよう努力していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活歴を把握し誇りにしておられることに対する言葉掛け対応に十分配慮するようにしている。 記録時はプライバシーを損ねないような記録をしないよう周知徹底している。ケース記録等には個人名を書かないことを統一している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	帰宅欲求訴え時は側に寄り添い本人が納得いくまで対話対応を行っている。 認知症の進行により言葉がうまく表出出来ない利用者に対するケアに取り組んでいる。ゆっくり話を聞く。意識して言葉掛けを多く持つ。穏やかに過ごす工夫をする事等。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人のペースに合わせてケアするよう職員間で声掛け合い実施している。理解できる利用者に対しては希望を聞き添うようにしている。		「何かしちよらんとたまらん」と言われホーム内の作業を熱心にされる。大いに誉め励ましている。自ら本棚から本（週刊誌・文芸春秋・新聞等）を取り出し読書を楽しんでいる。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族との外出時ワンピースに着替えて外出し馴染みの店で買い物を楽しんでいる。 現在は全員、職員が散髪は実施「スッキリした」「気持ちよくなった」と満足している。 ミニドライブ・外出・家族とのふれあいデー・行事等に参加する時は本人と話し気に入った衣類を着用するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂に座り今日のメニューを知らせ匂い・音の感触を味わいながら食事を楽しみにしている。必ず後片付けを毎回しようとされる利用者に対してできる事をしてもらう。交代でテーブル拭きを手伝ってもらっている。毎回手を合わせ全員で大きな声で感謝し挨拶するよう習慣づけている。		
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生会時お酒・飲み物を飲用している。個人差があり男性利用者が喜ばれる。喫煙される方はいない。外出時購入してきたお菓子・コーヒー等家族より依頼された時は本人と話ながら提供している。糖尿病等食事制限のある利用者への配慮を行っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し日中は拒否しないよう声掛けに十分配慮している。トイレの場所が理解できない利用者に対しては個別ケアを行い気持ちよく排泄できるよう支援している。夜間帯は予防の為にパットのみ使用したり状態に応じて尿器・ポータブルトイレを使用している。又、排泄時は確認を行い失敗時・下着汚れ時はさりげなく清拭し介助している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間を取り一人ひとりとコミュニケーションの場として思いを吐き出す場として実施している。「気持ちいい」と笑顔で喜ばれお礼を言われる。ADL低下が見られ浴室に入ることが困難になってきている利用者に対してのこれからのケアに苦慮している。		
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家で使い慣れたベットを持参してもらったり布団の下のマットの調節をしてベットへの移乗・端在位時足が床について安心・安定できるようにしている。使い慣れた長椅子に座り居室内で自由に休息している。冷暖房の温度調節には十分配慮し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人暮らしをしておられた男性利用者が洗濯物たみさを丁寧にきれいにされる。絵を描いておられた男性利用者と一緒に併施設にある絵を散歩を兼ねて見て楽しむ。	○	一人暮らしをしておられた女性利用者が読書が好きとの事で家族が家から愛読書を持参され自ら本棚より出し読まれる。担当が準備提供した「ぬり絵」本を見ながら熱心に色鉛筆で塗り楽しんでおられた。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。 「お金がない」「持って来なかった」等訴えるも預かっている事を話すと安心する。 家族了解の元、ポケットにお金を入れている。 外出やミニドライブ時買い物をする場合お小遣い帳より本人に渡し買い物を楽しんでいる。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	業務同行を兼ねて職員と一緒に散歩を楽しんでいるミニドライブを計画し近隣の公園等に出かけ気分転換をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族が定期的に昔住んでいた所や買い物・食事に出かけ協力的である。 年2回家族・職員と一緒にダイエーに出かけ買い物食事を楽しむ。（ふれあいデー）	○	ふれあいデーは好評で参加者が多い。家族同士のふれあいもあり続けていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外在住の家族からの電話に出でもらい話す事で家族も安心される。 顔写真入りの年賀状を出している。 帰宅欲求の強い利用者の家族に協力をお願いし電話対応にて不穏・興奮が緩和されている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	県外在住の家族が毎月来園され以前住んでいた家に利用者と一緒に外泊される。 面会時はお茶を提供し居室内でゆっくりくつろいでいただけるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベランダよりフェンスを乗り越え屋根に降りた利用者に対して家族の了解の元居室窓を外から鍵をかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	毎日帰宅欲求訴えがあり、玄関より出ようとする利用者に対して、居場所の確認と様子観察訴え時の傾聴受容を行っている。	○	職員は玄関の開閉時毎回大きな声で挨拶（ただいま出ます等）する。 利用者が散歩・業務同行した時は利用者に大きな声で挨拶を促す。 玄関の開閉時になる鈴の音に常に気をつけ外に出ようとする利用者の安全に努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間の連携・声掛けを密にし利用者の居場所の確認を行い安全に努めている。	○	利用者がウロウロしたり顔が変わり「わからないんだよ」との訴えがあった時は側に寄り添い話を聞き納得いくケアをする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は所定の場所に保管し危機管理に取り組んでいる。 ハサミ・針等利用者より要望があった時は側につき使用後は回収し安全に努めている。	○	ポリデント（義歯洗浄剤）は管理し定期的に消毒を行う。理解できる利用者にはわかりやすく説明し義歯を持ってきてもらう。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒は一人ひとりの利用者の状態把握を行いハード面でも工夫し防止に努めている。無断外出しようとする利用者に対して職員間の報連相を徹底し安全に努めている。 服薬時は名前・日時を確認し職員同士声掛け合って服用するよう周知徹底している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	特養での園内研修・毎月の定例研修会・連絡協議会での研修等において学び備えている。 年間計画の中に訓練があり参加している。 マニュアルも作成し危機管理の中に綴じている。		定例研修会に消防士を招き急変時救急車が到着するまでの対応を学び、実技を行い現在の対応法がわかり勉強になった。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を実施している。 地域の人々に協力をお願いしている。 併設施設の職員への協力依頼・連絡網が周知している。	○	2階なので避難経路（トンネル式スベリ台・屋根ずたいに避難する）の確保をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃の状態報告を電話や面会時・行事参加時・ケアプラン説明時報告し対応をこまめに説明している。夜間ベット柵や布団に鈴をつけ音により早めの対応を行っている。センサーマットを使用し動きを把握し転倒防止に努めている。	○	夜間帯（職員が一人）同時にケガが生じた場合の優先順位を考え声掛け・ケアを工夫し安全確保に努める。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	熱発しやすい利用者に対しては定期的なバイタル測定を行い早期発見に努めている。食事摂取・顔色・呼吸状態等を常に把握するよう心掛けている。言動がいつもとちがう場合はバイタル測定を行い異変の発見に努めている。早め早めの発見・対応をするよう職員同士話し合い共有するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬については記録し内容を把握している。又、服薬が変更になった場合は職員へ報告・記録し症状の変化に注意し報告・連絡するよう申し送る。		服薬時の対応（落としたり口から出したり声掛けが理解出来ず拒否する）に苦慮している。職員は声掛け・タイミングを工夫し取り組んでいる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック・記録・確認を行う。自力排泄をする利用者に対しては長く洋式トイレに座っていたり下着の確認をして把握する。（水洗トイレの水を流してしまう）散歩・業務同行・軽い運動を行い便秘予防に努めている。水分補給をこまめに行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で歯磨きが出来ない利用者は介助にて義歯の洗浄・うがい介助を実施。認知症により声掛けが理解出来ず応じない時は時間をずらしたり声掛けに工夫している。義歯をはめたまま歯磨きをする利用者には側に付き声掛け確認し出来た時は大いに誉めるようにしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に文章・口頭で状態報告し指導を受け話し合いを行い一人ひとりに応じた支援を行っている。ケアカンファレンスで話し合い、必要な場合はケアプランに取り上げチェックを行い職員が統一して取り組むようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザは職員・利用者全員予防注射を受けている。C型肝炎利用者に対しては食器を別にし強酸性水で消毒している。出血時は手袋使用し衣類等は他の利用者と別に対処している。C型肝炎利用者は入浴時最後に入浴するようにし出血による感染防止に努めている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・冷蔵庫・食器棚の整理・整頓掃除はこまめに行い衛生管理に努めている。食材は常に把握し安全に努めている。	○	食材分け時は食材の状態を把握し適切でない材料の時は業者・セントラルへ連絡し対処する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階なのでベランダには季節の花を植え一年中緑のある環境に心掛け実施している。		花の水やり・枯れた葉っぱをとったり利用者と一緒にベランダに出て会話しながら楽しんでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったり家族が面会時持参された花を飾っている。ホールに簾の衝立を置きトイレとホールの空間の配慮に努めている。ホールベンチ・長椅子に座布団を置き暖かい雰囲気作りを行っている。	○	行事等で写した利用者・家族の写真を共用空間に飾っていきたい。家族より提供された写真はその都度飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ソファに利用者同士座り会話を楽しんでいる。臥床したい時は自由に居室に戻りベットに横になったり長椅子に座って過ごしている。	○	一人で座れるゆったりした椅子（按摩器のような）があったらいいなあと思っている。共用空間（ホール・食堂）に置く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者に応じて使い続けていた物をそのまま利用 してもらっている。好みのもも利用者に応じて 提供しているが危ないと思った物（椅子に立っ てしまう）は、家族と相談して持って帰ってら っている。	○	利用者（本人）の作品（塗り絵）や家族からの写 真などを飾りその人らしい思い出の部屋づくりを これからもやっていきたい。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日中は天窓を開け、夜間は閉めている。そして全 員が外出する時は居室の窓を開け換気を行って いる。温度調節は利用者の状況に応じて入れ たり消したりとこまめに行っている。	○	気持ちのいい風がある時は職員見守りにて食堂 の窓を開けたりしている。利用者からも「気持 ちいい」と言われるのでできるだけ実施して いきたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	ホールに設置してある手すりを利用し足踏 みをし下肢筋力・浮腫の軽減に努めている。	○	ホール内・ベランダ・スロープを利用して一人 ひとりの身体機能の程度に合わせて散歩を 実施していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	居室入口に名前をはっきり書き自分の居 室の確認ができるようにしている。又、居 室内は担当が混乱や失敗を防ぐようそ れぞれ工夫している。	○	一人ひとりのわかる力を把握し本人の満 足する物を提供しこれからも残存機能 を生かしながら自立して暮らしてい けるよう努力していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんで、活動できるように活かし ている	ベランダに椅子を置き座ってもらい外 気浴したり会話したり楽しんでいる。 ベランダには花が植えてあるので枯 れた花を利用者に手入れしてもら うこともある。	○	ベランダにテーブル・椅子をおいて外 気浴をしながらおやつ・お茶などを 飲んでゆっくりしたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

17年度より宮崎市が実施している認知症ケアマネジメント推進事業に参加しセンター方式を学んでいます。17年度は3号館がケース担当者として1年間学びました。不穏や興奮が緩和され家族の協力もあり成果がありました。

18年度は1号館がケース担当者になり職員が同じ視点でケアに取り組み利用者へ寄り添う事で利用者より感謝の言葉が聞かれる様になりました。

19年度は2号館が取り組んでいます。職員サイドのケアから利用者本位のケアへ職員間で試行錯誤しながら努力している所です。3号館と1号館のケース担当者が協力員として参加し一緒に考え又、他施設の情報や学んだことを定例研修会で報告し意見交換を行っている。